

特別分科会①【アドミッション専門人材開発】

第4回アドミッション・スペシャリスト能力開発研修会
(京都会場)

講師▶ 立脇 洋介 (九州大学アドミッションセンター准教授)
講師▶ 植野 美彦 (徳島大学高等教育研究センターアドミッション部門教授)
コーディネーター▶ 山本以和子 (京都工芸繊維大学工芸科学部教授)

この分科会は、入試担当の大学教職員を主対象として高大接続領域の専門性の高い人材開発を目的とした研修会である。第4回は「入試の評価方法」「書類・面接選考担当者の選抜実施」について取り上げる。なお、この特別分科会は、九州大学次世代大学教育開発センターとの共同開催となる。

概 略

この特別分科会は、大学のまち、京都として、初等・中等教育の教育変化を上手に捉え、これからの時代に即した大学教育展開に乗じた大学入学選抜の基盤づくりに貢献できる人材育成を目指している。また、このアドミッション分野の専門性は幅広く、一人で包括するのは難しい。同じ分野の異なる領域の専門家と連携し、地域のアドミッション事業の向上が図れるよう、ネットワークを形成することも展望している。

第4回は、新型コロナウイルス感染対策のためリモートにて分科会を開催した。アドミッション・スペシャリストの養成のためのこの講座は、九州大学基幹教育院文部科学省教育関係協働利用拠点事業の協力のもと、同講座と同様のカリキュラムで展開した。

報告者1の立脇氏より「入試の評価方法」として、テスト問題分析、入学後の追跡調査などの入試の検証について説明があった。次に報告者2の植野氏より「書類・面接選考担当者の選抜実施」として、アドミッション・スペシャリストが学内の選考にどのように関与していくのかをテーマとして、アドミッションポリシーの具体的事例とともにそれを利用した書類・面接の選考における評価方法への関わり方についてのレクチャーがあった。

到達点と今後の課題

今回も過去回と引き続き、2人の講師のレクチャーを行い、その後に講義内容および語句等の質疑応答を行った。

受講申込者は32名。実際の参加者は17名であった。申し込み段階で高校教職員は12.5%、大学教員は31.3%、大学職員が37.5%であった。高校教員は、3名(富山県、兵庫県、京都府)からの申し込みがあった。大学教職員は、加盟校が36%を占め、北は東京都、南は広島県からの申し込みがあった。府外からの高校・大学関係者の申し込みは72%であった。実際の参加者は、高

校教職員は5%、大学教員は17%と少なく、大学職員が58%と多かった。大学教職員は、加盟校が41%を占め、府外からの高校・大学関係者の参加者は52%で、府外からの申込者が当日の参加を見送ったようである。

今回は、実務担当者を中心とした具体的な内容の構成にし、なるべく詳細な説明を行ったが、リモートツールでの実施なので、通信負荷を考慮して討論を実施しなかった。アンケートの回収率も半数以下で判断が難しいが、オープンアンサーでは気付きが多かった意見がもらえているところから、具体的に丁寧に講義した点が評価されたようである。また、アンケート回答者のうち70%が次年度以降の実施を期待しているところ、2021年度の大学入試改革後のタイミングでもある次回に向けて、新たな課題への対応知識につながるテーマの企画を検討することが示唆された。

スライド1

第18回高大連携教育フォーラム
特別分科会①「アドミッション専門人材開発」

入試の評価方法

九州大学 立脇洋介

スライド2

KYUSHU UNIVERSITY **0.入試の検証の重要性**

- 入試を評価するためには、入試を検証し、良い点や課題を定期的に評価することが必要。
- 文部科学省も入試の検証を求めており、大半の大学が実施。

選抜の妥当性・信頼性等の状況

※大学入試のあり方に関する検討会議第16回資料。文部科学省が令和2年9月に実施した調査。699大学、2222学部データのデータ。

スライド3

KYUSHU UNIVERSITY **0.入試の検証の重要性**

- しかし、特に個別大学・学部の入試の場合、データの少なさや偏りなどのために、統計的な方法だけでは限界がある。
- さらに、検証結果をどのように実際の入試に反映させるのかということも大きな課題。
- 入試に関する主要な検証内容と、その方法や限界を解説。

- ①基本分析
- ②テスト問題の分析
- ③入学後データとの関連

スライド4

KYUSHU UNIVERSITY **1.基本分析**

- 志願者数、倍率、志願者・合格者の属性は、基本となる分析。
例) 性別、現役・浪人、都道府県
- 入試広報の方針を決める際、重要な分析。
- 数年間のデータを比較して傾向を見る必要がある。
隔年現象…倍率が高かった学部は、避けられ翌年に低下
倍率が低かった学部は、人気が出て翌年に上昇
- 学部や入試の変更、特別な状況(入試制度変更)などの場合には特に注意深く見る必要がある。

※本年度は入試制度の変更に加えて、入試広報や遠方受験などが例年と大きく異なるため、要注意!

スライド5

KYUSHU UNIVERSITY **2. テスト問題の分析**

- 入試の検証の主要な方法。
- 統計的な分析と内容的分析がある。

<分析で使われる主な統計量>

	統計量	説明
難易度	総得点の平均	・5~7割が目安
	個別問題の正答率	
信頼性	得点分布	・合格者と不合格者別でもよい
	α 係数	・テスト全体の一貫性。0.7が目安
	I-T相関	・総得点と個別問題との相関 ・他よりも低い項目を見つける

スライド6

KYUSHU UNIVERSITY **2. テスト問題の分析**

<分析結果の例 得点分布>

- 合格者と不合格者をうまく判定している。
- 平均得点率は合格者で55%。不合格者で35%ほどとやや低い。

スライド7

KYUSHU UNIVERSITY 2. テスト問題の分析 6

<内容的評価>

- ・作成者以外の人がテスト問題の内容を評価。
- ・評価者…学内の作題OB、高校や塾・予備校関係者
- ・センター試験は、複数の教科の団体が問題の評価を実施。
- ・主要大学…赤本や大手の塾や予備校が問題分析を公表。
- ・高校訪問で問題の評判を聞いたり、県の高校の教科部会からコメントをもらうこともある。

⇒ただし、明確な基準は存在しない

スライド8

KYUSHU UNIVERSITY 2. テスト問題の分析 7

<分析結果の活用方法>

- ・アメリカの共通試験や英語能力試験のように、問題を非公表として、繰り返し使う場合、統計的分析の結果、悪問を除外。
- ⇒日本の大学入試では、問題数が少なく、問題が毎年公表されるため、不可能
- ⇒I-T相関や正答率などの分析結果と問題へのコメントを問題作成者に渡して、**次年度以降**の問題作成で反映
- 3月の入試結果を5月頃までにまとめる必要がある

スライド9

KYUSHU UNIVERSITY 2. テスト問題の分析 8

<その他の注意点>

- ①統計的に望ましいだけでなく、入学後に役立つ問題がよい。
例) 多肢選択で問題数が多い⇨論述形式や面接など少ない問題で質を問う
統計的な信頼性では、国語では古典・漢文が優れていて、小説や評論が低い
⇒受験トレーニングが必要な内容と、誰でもそれなりに回答できる内容の違い。
古典・漢文のみ出題した場合、大学教育で支障が出てしまう。
- ②大学の状況(目的)によって望ましい問題は異なる。
例) 医学部のある大学では、4題のうち、1題の難易度をあえて高くする
上位層が他大学へ入学する場合、ボーダー層の能力を識別する問題を多く

⇒事前に見たいポイントを定めて狙い通りか検証したり、前年や他の教科と比べて適切かという観点で評価する方がよい。

スライド10

KYUSHU UNIVERSITY 3. 入学後データとの関連 9

- ・入学後の成績に関して、入試の成績との関連を検討したり、入試区分ごとの成績を比較したりする。
- ・学部や教員などから最も期待される内容であるが、様々な理由で課題も多い。

<検証の難しさ>

- ・大学の成績：各授業の評価基準がバラバラ。
- ・総合や推薦の学生は、専門の授業でのパフォーマンスが期待されるが、学年が進むほど、入試の効果が薄れる。
- ・一部の学部を除いて入学後の進路(目標)がばらばら。

スライド11

KYUSHU UNIVERSITY 3. 入学後データとの関連 10

<検証の難しさ>

- ・入試区分によっては人数が非常に少ない(30以上ほしい)
- ・選抜効果と呼ばれる現象のため、データの歪みが出てくる。
- 例) 不合格者のデータがないため、合格者のみで関連を見る
⇒数学は入学後の成績に関連しないという結果が出て、80点の人で差がないだけで、0~100点なら差がある可能性。

合格者は合計点が〇点以上のため、教科間で負の相関が生じることも。

スライド12

KYUSHU UNIVERSITY 3. 入学後データとの関連 11

<入学後の成績の例>

(初年次) GPA、英語民間試験、各種ジェネリックスキル、卒業論文の成績、医学教養試験、大学院入試の成績、学内外の表彰…

<対応方法>

- ・総得点や入試区分の比較(AOと一般など)、GPAなど大きな単位で分析する
- ⇒各教科や授業の成績は誤差が大きいので、目的が明確な場合に限定する。
- 例) 英語を課している人と課していない人での英語の成績比較
- ・複数年度分析して一貫した傾向が重要。
- ⇒1年ごとの結果で入試を変更しない!

スライド1

第18回高大連携教育フォーラム
特別分科会①アドミッション専門人材開発
第4回アドミッション・スペシャリスト能力開発研修会
2020年12月6日（日）

書類・面接選考担当者の選抜実施
(アドミッション・スペシャリストによる書類選考・面接の実施)



徳島大学 高等教育研究センターアドミッション部門
植野 美彦

TOKUSHIMA UNIVERSITY

スライド2

2

本日の概要

- 1 アドミッション・スペシャリスト（AS）が学内の選考にどのように関係していくのか
――徳島大学の事例を踏まえて――
- 2 書類・面接担当者の選考実施
- 3 最後にかえて

終了後、質疑応答

★ 1、3については、主に国立大学教職員向け
2については、公立、私立大学教職員の方も活用できる内容としています。

スライド3

3

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか
――徳島大学の事例を踏まえて――

スライド4

4

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか

今回の研修会は、アドミッション・スペシャリスト（以下、ASと略す）が、書類選考や面接の実施をどのように進めて行くかを考えていきます。

ただし、前提として、「ASが学内の選考にどのように関係していくのか」をおさえなければなりません。

ASの役割は、入試広報だけでよいのでしょうか。

選抜のサイクルに深く関わることが求められるのではないのでしょうか。…ただの入試評論家で終わってはなりません。

徳島大学の事例を参考として紹介しながら、ご報告させていただきます。

スライド5

5

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか

アドミッション・スペシャリスト

日本の場合、職員だけでなく教員も入学者選抜に関わるため

… 京都工芸繊維大学 山本以和子 教授

- ・ 選考の実施（や入試広報） … だけではない
- ・ 選考の実施に関するサジェスション+支援
- ・ 研究活動（エビデンスの獲得）



スライド6

6

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか

アドミッション組織は大学入試に対してどういう役割？

学術的な意義よりも問題解決を優先した研究活動とし、個別の大学が大学入試で抱える課題を解決することが目的。

- ・ 入試制度設計
- ・ 入試方法の検証
- ・ 入学者の追跡調査
- ・ 学生獲得戦略
- ・ アドミッション・ポリシーの策定 など

西部大（2016）「日本のアドミッションセンターと機関研究としての大学入試研究」（平成28年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会／公開討論会資料）より引用

アドミッション組織の必要性

（中略）各大学において、アドミッション・オフィスの整備・強化やアドミッション・オフィサーなど多面的・総合的な評価による入学者選抜を支える専門人材の職務の確立・育成・配置等に取り組むことが必要である。このような専門的な組織や人員配置等を行うことは、従来、入学者選抜の業務を担ってきた個々の教員の負担軽減にも資するものである。国においても、効果的な財政支援等を通じて、各大学の入学者選抜改革を促す。

高大接続システム改革会議（2016）「高大接続システム改革会議『最終報告』」より引用

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか

徳島大学高等教育研究センターアドミッション部門の事業内容

(1) 入学者選抜及び入試広報に係る企画及び提案等に関すること。
 (2) 入学者選抜における調査、分析及び研究に関すること。
 (3) 四国地区国立大学連合アドミッションセンターに関すること。
 (4) その他入学者選抜に関し必要な事項。

【現在の構成員】
 専任教員 2名、特任研究員 1名
 兼務教員 12名（総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、理工学部、生物資源産業学部、教養教育院、教育の質保証支援室）
 入試課長 1名

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか

徳島大学の教育体制（学部）入学定員：1,288名



常三島キャンパス

共通講義棟 (LED大時計)

総合科学部

理工学部

生物資源産業学部



2019.3 ポストLEDフォトニクス研究所を設置



徳島大学病院

蔵本キャンパス

医学部

歯学部

薬学部



医務統合型キャンパス・県立中央病院が隣接

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか

**大学入学選抜改革における「徳島方式」の実施
 (第3期中期目標「戦略性の高い目標」)**

「徳島方式」の定義
 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた改革を行うため、本学の教育方針を踏まえ入学者に求める能力及びその評価基準・方法を明確にした入学選抜方針（AP）に基づき、公正な入学選抜を実施すること。

全学でAPを実質化

【参考】
 ペネッセ(2017), 「Between2017 7-8月号」
http://shinken-aid.co.jp/between/backnumber/pdf/2017_7_tokushu07.pdf 2020.11.19閲覧
 さらに詳しい内容は…
 梶野 (2017), 「徳島大学生物資源産業学部の個別選抜改革——高大接続改革実行プランを受けた多面的・総合的評価の設計と実施——」『大学入試研究ジャーナル』, 27, 1-7.
 梶野, 野田(2018), 「大学入学選抜改革における「徳島方式」の事例」『大学入試研究ジャーナル』, 28, 215-220.

徳島大学生物資源産業学部 アドミッション・ポリシー

R3入試

生物資源産業学部

■生物資源産業学部
 生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医療、食料としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に適用する専門性、バイオ産業創出に必要な基礎マインドをもった人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。

●求める人物像

- 関心・意欲・態度
 バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標をもっている人
- 探究力
 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人
- 表現力
 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人
- 知識・教養
 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人
- 思考力・判断力
 多岐にわたる知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人
- 協働性
 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれないこと、対等の立場で協力できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

理 科 「化学、化学基礎」「生物、生物基礎」「物理、物理基礎」から2科目以上に渡る内容の理解と、自然環境で起こっている現象やその問題解決に必要な知識・教養。特に、入学後の学修に備えるため、化学に関する科目は実験データの解析力なども高まえて、確実な修得をはかること。

数 学 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」における内容の理解と応用力

英 語 国際的な専門分野を学ぶために必要な読解力と基礎的な運用能力

国 語 様々な文脈の読解力と、自分が伝えたいことを表現できる基礎的な文筆力

地歴・公民 地歴・公民における基礎的な内容の理解

徳島大学生物資源産業学部 アドミッション・ポリシー

R3入試

●入学選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）
 大学入学共通テストで「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験ではこれらに加えて「表現力」「関心・意欲・態度」「探究力」を評価します。知識のみならず、学習意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。

一般選抜（後期日程）
 大学入学共通テストで「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験ではこれらに加えて「探究力」「表現力」を評価します。より深い知識とともに、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。

学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）＜地方創生型＞
 個別試験で「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」「知識・教養」を合わせて総合的に評価します。地方創生型入試は、各地域の産業界と結びつきの強い専門教育を行っている学科を対象とし、地方創生に意欲をもつ学生の受入を目的としています（地域枠あり）。大学入学共通テストは課さず、個別試験のみで選抜します。

学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）＜主体性・表現力重視型＞
 3教科の大学入学共通テストでより深い「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を重点的に評価し、「探究力」「思考力・判断力」を合わせて評価します。高等学校等段階における多様な能力、関心等を重視し、それを表現できる人を総合的に選抜します。

徳島大学生物資源産業学部 アドミッション・ポリシー

R3入試

●入学選抜方法における重点評価項目（入学選抜方法と求める人物像との関係性）

入学選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	探究力	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
共通テスト	一般（前期）						
	一般（後期）				○	○	
総合問題	一般（前期）		○	○	○	○	
	一般（後期）						
小論文	推薦Ⅰ			○		○	
集団討論	推薦Ⅱ			○		○	○
集団面接	一般（前期）	○		○			
	推薦Ⅱ						
個人面接（口頭試問含む）	推薦Ⅰ	○			○		
活動報告書	推薦Ⅰ		○	○			○
	推薦Ⅱ						
学びの設計書	推薦Ⅰ		○	○			
	推薦Ⅱ						
調査書	一般（前期）				（総合判定の参考）		
	一般（後期）						
	推薦Ⅰ	○					○
	推薦Ⅱ						

スライド 13

徳島大学生物資源産業学部 アドミッション・ポリシー 13		
●入学者選抜方法における選抜内容		
入学者選抜方法	該当選抜区分	選 抜 内 容
R3入試		
総合問題	一般 (前期) 一般 (後期)	日本語で書かれた文章や図表等により、下記の力を持つ記述・論述式の出題を行う。 ①化学 (化基・化) に関する基礎学力と思考・判断力 (実験データの解釈・新法考を問う場合あり) ②環境の社会における基礎知識 (バイオテクノロジー、食料、農業等) で考える問題) や生物資源産業への深い関心と、自らの考えを表現する力 ※2は入り紙又は要案を含めた出題
小論文	推薦Ⅰ	日本語で書かれた文章や図表等により、「思考力・判断力」「表現力」を問う論述式の出題を行う。
集団討議	推薦Ⅱ	複数の評価担当者による集団討議を行う。試験室で、テーマの提示(「バイオテクノロジー」「食料」「農業資源」)等の提示、15分間で各々の思考のまとめ(所定用紙の記述と提出)を行う。考察のまとめの後に、集団討議を行う(必ずしも前よりまとめに関する記述と提出)。討議の進行は評価担当者が行う。
集団面接	一般 (前期) 推薦Ⅱ	複数の評価担当者による集団面接を行う。アドミッション・ポリシーに基づいて集団面接を行い、提出書類等の確認を行う場合がある。 ※一般選抜 (前期) は、2日間に渡って選抜 (1日目・総合問題、2日目・集団面接) を実施し、集団面接は1日目の受験者数によって、集団面接を午前に実施し、午後実施する場合はある (1日目に終了後に評価を実施)。
個人面接 (口頭試問含む)	推薦Ⅰ	複数の評価担当者による個人面接を行う。アドミッション・ポリシーに基づいて個人面接を行い、提出書類等の確認を行う場合がある。また、高校の履修状況 (「化学基礎」等) を確認するため、口頭試問を行う。
活動報告書	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	中学校卒業後の「趣味的に取り組んだ活動 (部活動、生徒会活動、プロジェクト活動、ボランティア活動、海外研修などの学校外で行った活動)」を評価する。また、推薦Ⅰにおいては、「趣味的に取り組んだ活動に書業、工業、農業、水産に関する学科又は総合学科特有の活動実績を評価し、「資格・検定等」の有無を考慮する。 ※提出書類等の詳細は、「活動報告書」作成要領を135～137ページに掲載しているため、必ず確認すること。
学びの設計書	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	大学・社会人まで繋ぐ設計書を作成する。自分がこれから学びたい分野の理由を含めて、300字～400字で簡潔に作成して提出する。学びの設計書は必ず受験者自身で作成する。
調査書	一般 (前期) 一般 (後期) 推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	【一般 (前期) (後期)】 総合判定の参考とする。 【推薦Ⅰ・推薦Ⅱ】 アドミッション・ポリシーに基づいて評価する。
推薦書	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	学習や活動等の状況を踏まえ、総合して判定する。

スライド 14

14

1 ASが学内の選考にどのように関係していくのか

大学入試改革で忘れてはならないこと。

アドミッション・ポリシー (AP) の実質化

APが形骸化せず、入学者選抜に機能するためには、学生が必要と考える「情報」を大学教員が理解する必要がある。(立脇ほか、2015)

参考文献:
立脇洋介, 山村浩, 澤中淳子, 鈴木規夫 (2015). 「アドミッション・ポリシーをめぐる学生と教員の意識」『大学入試研究ジャーナル』, 25, 57-62.

… (私見)

大学教員にAPの重要性を認識してもらうこともASの重要な役割。
APは入学者受入方針+説明責任 (APの役割はさらに大きくなる)。

改革を契機として、AP策定・改善を支援していくことが大切です。

スライド 15

15

2 書類・面接担当者の選考実施

スライド 16

16

2 書類・面接担当者の選考実施

第2章では、ASによる「書類・面接担当者」の選考実施について考えていきます。

実際の選考は、各学部の先生方で行うことが基本となるでしょう。そこに適切な助言と支援ができてこそ、真のASと言えます。

これまで徳島大学の関係教職員と連携し、改善・蓄積を重ねてきた評価技法を中心に事例紹介 (差し支えない範囲) を行い、掲題のことを進めるにあたって、あらかじめ知っておいて欲しいことをお伝えします。

今後の活動の参考にいただければ幸いです。

スライド 17

2 書類・面接担当者の選考実施

第2章の資料は口頭による説明が必要なため非公開

スライド 18

3 最後にかえて

アドミッション・スペシャリストとしての心得 (私見)

- ・各部局へは提案だけでなく「支援」を忘れずに。
- …「応援」と「支援」は意味が違う。
提案だけだと負担を増やすだけの場合も…。
口を動かす、手も動かすイメージ。
- ・提案は、各部局の実態に合わせることを意識。
- …アドミッション・ポリシーは学部 (学科) によって違います。
- ・アドミッション・ポリシーは定期的なメンテナンスを。